

第103期 株主通信



BUSINESS REPORT

2017年4月1日～2018年3月31日

証券コード:4543



「日本発のグローバル企業」として さらなる進化を

株主の皆様には、日頃よりテルモグループの事業活動にご理解、ご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

前期において、当社グループの業績は売上・全ての利益において過去最高を更新し、中長期成長戦略の初年度は非常に良いスタートを切ることができました。また、2016年度に買収した3事業についても想定以上に円滑な統合が進みました。特にバスクテック社とボルトン・メディカル社が実質統合した心臓血管カンパニー血管事業では、2018年4月に「Terumo Aortic(テルモアオルティック)」という新ブランドを発表しました。このように各領域におけるテルモのブランド力を一層強化することで、世界における存在感をさらに高

めてまいります。

テルモの海外売上比率は68%を占め、今後、その比重はさらに増加する見通しです。米国や新興国でテルモ製品への需要は伸びていますが、世界的に医療費抑制への動きが強まる中、競争も厳しさを増しています。テルモは製品の性能や実品質だけでなく、供給およびメンテナンスやトレーニングなどサービスを含めたトータルクオリティーに注力し、より包括的なソリューションを追求してまいります。同時に、持続的成長を支えるためグローバル・オペレーションを強化しています。特に、生産インフラの拡充は経営上の最優先課題であり、この度「生産ルネサンス」という全社プロジェクトが発足しました。世界に30ある工場を全体最適の視点から捉えなおし、生産性を一層改善するとともに生産能力をタイムリーに増強してまいります。

世界市場における製品競争力を強化するために戦略的内部開発にも積極的に投資をしています。自由で創造的な風土を醸成するため湘南センターや愛鷹工場の開発環境の改善を図りました。また、米国シリコンバレーには日米社員が協働する新規技術の開発拠点を新たに設立しました。さらに、テルモグループ全体の開発シナジーを創出すべく、グローバルCTO※を媒介としてコア技術の相互共有など多様な連携を推進しています。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

※Chief Technology Officer(チーフテクノロジーオフィサー)



代表取締役社長CEO
佐藤 慎次郎

2018年3月期 期末の業績報告

売上収益 **5,878** 億円 前期比 **+14.3%**

営業利益 **1,086** 億円 前期比 **+23.7%**

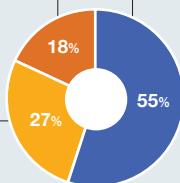
カンパニー別売上収益

血液システムカンパニー

1,047 億円
前期比 **+10.8%**

ホスピタルカンパニー

1,588 億円
前期比 **+0.6%**



心臓血管カンパニー

3,240 億円
前期比 **+23.9%**

地域別売上収益

アジア他 **1,091** 億円

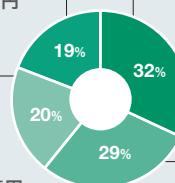
前期比 **+18.0%**

欧州 **1,182** 億円

前期比 **+24.4%**

海外合計 **3,989** 億円

前期比 **+21.9%**



日本 **1,889** 億円

前期比 **+1.0%**

米州 **1,716** 億円

前期比 **+22.9%**

売上収益の推移 (単位: 億円)



国際会計基準(IFRS)移行について

当社グループは2018年3月期期末決算より、国際会計基準(IFRS)を適用しています。IFRSの「売上収益」は日本基準の「売上高」に相当します。また、日本基準では、「営業外収益・費用」、「特別利益・損失」に表示していた項目のうち、金融収益・費用以外の項目を「その他の収益・費用」として営業損益の一部としているため、「営業利益」の範囲が異なっています。

2019年3月期 業績見通し

売上収益 **6,080** 億円 営業利益 **1,145** 億円

2018年3月期は、中長期成長戦略の目標達成に向けて順調な滑り出しとなりました。戦略推進の2年目となる2019年3月期は、薬価および特定保険医療材料価格の改訂に伴うマイナスの影響や、成長に向けた販売投資や研究開発費の増加が見込まれます。その影響を吸収し、持続的な成長を実現すべく、取り組んでまいります。

From Puerto Rico

止血デバイス「アンジオシール™」を世界中の医療現場に届けたい——

2017年1月、止血デバイスで世界トップシェアを有する「アンジオシール」の事業を買収したことで、当社はカテーテル分野での存在感をますます高めています。同製品の生産拠点であるテルモプエルトリコ社に駐在しているアソシエイト・平野将之に、これまでの取り組みと今後の展望などを聞きました。



アンジオシール



平野 将之 HIRANO Masayuki
テルモプエルトリコ社 駐在

とになる」、「皆さんはそれほど重要な製品を生産しており、大切な役割を担っている」ことを伝え続けました。本社の心血管カンパニーのトップが訪問し直接プエルトリコ工場への期待を語ったことも、彼らにとっては衝撃的だったようです。

また、テルモの歴史や文化、考え方、仕事観なども一つひとつ共有していきました。このように、遠い日本から常に自分たちに寄り添ってグループへの融合を図っていくというテルモの姿勢を受けて、現地のアソシエイトもテルモという会社への理解を深めてくれたと思います。ただ、テルモが目指すトータルクオリティの向上については、まだ受身な部分があったので、お客様に信頼されるためには、製品の質だけでなく、供給の質、サービスの質も高めていくことが重要であることを繰り返し説明していきました。これらを進めるにつれ、アソシエイトたちの士気も上がり、一丸となって取り組んでいこうとギアを上げた矢先の9月20日に、巨大ハリケーン「マリア」が襲ってきたのです。

ハリケーン「マリア」の被災を乗り越え 本当の“融合”が生まれ、一つになった

プエルトリコには毎年ハリケーンがやってくるので、当然、工場の防災対策マニュアルは存在し、様々な対策をとっていました。しかし、今回のハリケーンはかつてない規模で、島内の電気、通信網がすべて途絶えるなど甚大な被害をもたらしたため、生産停止を余儀なくされました。

まずは、アソシエイトと家族、生活環境の安全確保を優先しました。また、電波が不安定でしたが、かろうじてつながる手段で東京と密に連絡を取って、被災状況を共有し、復旧の対策を講じていきました。アソシエイトの被災生活を支援するため、一人ひとりに家用発電機を配るとともに、全アソシエイトを集めて工場の復旧めどやサポートがたくさん寄せられていることを伝えて、不安感の払拭を試みたりもしました。そうすると、それに呼応するように、自宅が被災し生活がままならない中で、アソシエイトたちが、工場復旧のために自主的に工場に駆け付けてくれて、がれきの片付けや清掃作業を手伝ってくれました。

これを見たときにテルモとプエルトリコの工場が本当の意味での“融合”を遂げ、一つになったと感じました。



水や家用発電機の配給の様子

世界中にある拠点と連携しながら アンジオシールをグローバルに広める

アソシエイトの熱心な復旧への取り組みがあり、11月には生産を再開し、今年の年明けには供給再開に漕ぎつけることができました。2月には佐藤社長が来訪し、現地アソシエイトに対して直接、ねぎらいと感謝の言葉が伝えられ、「ともにトータルクオリティを追求し、グローバルの医療市場でテルモをトップブランドにしよう」という激励に、皆、素直に共感していました。図らずも、被災からの復旧活動を通じて、テルモグループの一員であるという意識がより鮮明になり、グループにとって重要な事業を担っているのだという自負が育ったと思います。以後、「供給」や「サービス」に関する意識も高くなり、これにより能動的に取り組むようになりました。そうした「アソシエイトのクオリティ」を高めていくことも、グループの総合力を発揮するには大切なことだと感じています。

今後は、世界中のアソシエイトと連携しながら、モノづくりの立場から事業の成長に貢献していけるよう、現地のアソシエイトとともに力を合わせていきたいと思っています。



プエルトリコと、支援に尽力した米国の社員たち

テルモの企業理念とビジョンに 理解・共感してもらうことから始めた

2007年にテルモチリ社に赴任して以来、テルモブラジル社、テルモプエルトリコ社と、中南米で勤務してきました。私のミッションは、各拠点、各地域のオペレーションの整理と最適化、東京本社との円滑な連携の実現です。これらに加えて、プエルトリコ社では買収した事業をテルモと融合させることが重要な使命でした。特に注力したことは、テルモの企業理念の浸透、中長期ビジョンで示されているトータルクオリティを高めること、そして“アンジオシールが事業戦略上、大変重要な製品であること”を現地アソシエイトに理解してもらうことでした。

現地のアソシエイトには「アンジオシールがテルモの製品ラインアップに入ることで、カテーテル治療の始めの穿刺から終わりの止血まで、手技の一連の血管アクセス製品を取り揃えるこ

▼アンジオシール(大腿動脈穿刺部止血デバイス)

脚からのカテーテル術の最後に、カテーテルを挿入した部位を止血する医療機器。手指による圧迫止血と比較してカテーテル術の合併症である穿刺部止血のリスク低減が期待されます。

お知らせ 株主総会 決議内容

2018年6月22日に開催された当社第103期株主総会において、以下の通り決議されました。

第1号議案 剰余金処分の件

当期の期末配当金は、1株につき27円となりました。
これにより、中間配当金23円を加えた年間配当金は50円となりました。

第2号議案 取締役(監査等委員である取締役を除く)8名選任の件

三村孝仁、佐藤慎次郎、高木俊明、羽田野彰士、デビッド・ペレス、森郁夫および上田龍三の7氏が再選され、黒田由貴子氏が新たに選任されました。(森郁夫、上田龍三、黒田由貴子の3氏は、社外取締役です)

第3号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

坂口公一氏が選任されました。(坂口公一氏は、補欠の社外取締役です)

配当方針

当社は、収益を伴った持続的な成長を確保するため、利益の再投資を適正かつ積極的に進め、企業価値の一層の増大を図ってまいります。株主の皆様への利益配分につきましては、IFRS移行後も安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目指してまいります。当期の年間配当金は、1株につき50円といたします。したがって、期末配当金は、すでにお支払いした中間配当金23円を差し引き、1株につき27円となります。次期の年間配当金は、1株につき54円(うち中間配当金27円)を予定しております。

■ 1株当たり配当金 (円)



期末配当金のお支払いについて

第103期期末配当金は、同封の「期末配当金領収証」によりお支払いいたしますので、払渡期間中(2018年6月25日～2018年7月31日)にお近くのゆうちょ銀行または郵便局でお受け取りください。また、口座振込ご指定の方には、「期末配当金計算書」および「配当金振込先ご確認」のご案内を同封いたしましたので、ご確認ください。

株式についてのご案内

- ◎事業年度 4月1日から3月31日まで
- ◎株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- ◎同連絡先(郵便物送付・電話照会)
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部 電話:0120-232-711(フリーダイヤル)
- ◎単元株式数 100株

テルモ株式会社(証券コード: 4543)
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷二丁目44番1号 電話:03-3374-8111(代表)
<http://www.terumo.co.jp/>



株主優待のご案内

ご希望者全員に 「2019年テルモカレンダー」を お送りします

同封はがき、または下記ウェブサイトからご応募いただいた全ての株主様に、絵本作家・谷内こうた氏を起用した「2019年テルモカレンダー」をお送りします(発送は2018年12月頃を予定)。テルモカレンダーは、毎年ほのぼのとしたやさしい色彩とタッチの画家・絵本作家などを起用しており、お客様からも大変好評です。

応募サイトURL:

<https://www.enq-plus.com/enq/terumocal2019/form/>
お問い合わせ 0120-922-485(平日10～17時)



※写真は2018年版です



テルモは、第一次世界大戦の影響で輸入が途絶えた体温計を国産化するために、北里柴三郎博士をはじめとする医師らが発起人となり、1921年に設立されました。

北里柴三郎博士(資料提供:学校法人北里研究所)

TERUMOはテルモ株式会社の商標です。
テルモはテルモ株式会社の登録商標です。
アンジオシールはテルモポエルトリコ社の商標です。
Angio-Sealはテルモポエルトリコ社の登録商標です。
©テルモ株式会社 2018年6月